

溝川地区の話

みぞかわ はなし

網野町島津



溝川神社



正薬寺

元々正薬寺の檀家の方々の合同法事はこの場所で行なっています。

溝川区は島津地区自治会の内のひとつの区の名です。今回なぜ、この溝川区の紹介をするのかということですが、その昔、元々この溝川は独自の誕生の元に集落が成り立ってきました。(後述) 溝川地区の場所は下図のとおりで、島津地区中心の交差点から網野方面へ向かい、春日神社を過ぎると府道より左側に入る道があります。その道路に群がる小さな集落(といっても現在は府道に沿って家なりが続いているので分かりづらいかと)です。往古にはこの集落だけを指して「溝川の庄」と呼ばれていました。現在、島津区の秋祭りとして年1回10月に例祭がありますが、この溝川区のみは年2回の例祭(溝川神社)を個別で独自に行なっています。ちなみに溝川だけのお寺(正薬寺)も過去には地区西方の高台にありましたが、日光・月光菩薩立像を蓮華寺(島津愛宕区)に移管し現在は本像一体を残す小堂のみが建っています。そんな独自の歴史を持つこの小さな地域ですが、この地に生まれた一人のお年寄り(故人)が書き残した文書があります。今回はそのお年寄りの方が残された文書「溝川の話」★溝川・児童のみなさんへ……を紹介いたします。



「とうふ屋のおじいさんの話」……から記憶の新しいことでは現在の「島津(しまづ)」という地名は昭和25年4月までの島津村の村名を残したもので、町村合併までは「島溝川(しまみぞかわ)」と呼ばれていました。以前の地区紹介と重なりますので、これらの詳しいことは省略します。

そこで、この溝川集落の住民が元々この地区(場所)に住んでいたのかどうかですが、言い伝えによりますとこの集落は往古においては、網野の端郷(はごう)と呼ばれ、網野村の一部の場所に住んでいたと言います(※端郷とは独立した一村を形成せず、行政上本村の世話をうけた集落)。その端郷であった場所ですが、現在の網野町桃山区「視覚障害者センター」の上の辺りです。高い位置にあるため、日本海から吹き上げてくる強風に耐えられず、一部の人たちは現在の島津溝川地区に移動し住み着いたと云う話です。これが現在の溝川区の成り立ちです。それゆえか神社、お寺が独自にある由縁であろうかと考えます。そして、前述しました溝川神社の祭礼は春(3月下旬)と、秋(9月下旬)の2回行われています。

「こもり堂の話」…… この溝川神社のお祭りでは、昔より小学生ぐらいの男子だけの神事で、集落各家の健康と幸福を祈り宮籠りをしたと云います。そして、この神事(行事)は今でも続けられています。もちろんこの神社の氏子である溝川区の子供たちだけの行事です。

また、他の事では「火の用心啓蒙」のため拍子木を叩き、集落内を巡回する習慣もつい近年まで行なわれていました。こうした島津区の中でも独自に歴史の語りを持つ地区です。語り部が残された史話を大切に伝えていきたいものです。

溝川の子供たちへ



高台の正薬寺のあった場所より集落を見る